

様式1

令和5年度 学校評価表

学校教育目標

社会で通用する基礎・基本を磨き、
よりよい自分・学校・社会を目指す生徒の育成

令和5年4月25日

a ミッション
【地域・社会における
本校の使命・存在意義】

地域に誇れる学校づくり
～ 地域からの期待に応え、期待を超える学校づくりを ～

a ビジョン
【実現しようとする
本校の将来像】

○オール因島南（学校・家庭・地域）で、連携・協働し、生徒を育む学校
○学校・地域（ふるさと）を誇り、自分の生き方を見つめ直すことに繋げる学校
○社会の変化に対応し、向上心を持ち、思いを実行に移せる学校

尾道市立因島南中学校

評価計画						自己評価					学校関係者評価			改善計画			
	b 中期経営目標	c 短期経営目標	d 目標達成のための方策	e 評価指標	f 目標値	7月	1月	h 達成度	i 評価	j 結果と課題の説明	k 二次評価			l コメント	m 改善案		
						g 達成値	g 達成値				イ	ロ	ハ				
育成する資質・能力 「基礎・基本の力」「思考力・表現力・対応力」「高い志とチャレンジ精神」	確かな学力の育成	本質的な問いに基づいた単元を貫く問いや、個別の問い（学習課題・ミッション）を工夫し、授業をファシリテートすることで、生徒の意欲や探究心を高め、表現力を育成する。	【授業改善の推進】 ○授業のめあて、振り返りとゴールイメージを持ち、授業をファシリテートできる教職員の育成。 ○電子黒板・大型ディスプレイと板書の併用、タブレットを活用した授業づくりの推進。 ○これらを活用した授業スタイルの確立。	S1～10「〇〇の授業は、「できた」「わかった」と感じることがある。」と答えた生徒の割合（全教科平均）【7月・11月実施】（昨年度79％）	80％												
			S11：「授業の課題について「なぜだろう」「やってみたい」と感じることがある。」と答えた生徒の割合【7月・11月実施】（昨年度77.5％）	85％													
		「社会で通用する基礎・基本」を身につけ、活かすことができる生徒の育成。	【基礎学力の定着】 ○「学びのサイクル」の充実・発展 ・授業と家庭学習と南中タイムと試験を連動させ、個別指導に取り組む。 ○様々な場面での振り返りの実施 ・授業、生徒会、学校行事などのめあて、振り返りとゴールイメージを持って指導を行う。 ○家庭学習習慣の定着に向けて ・委員会による課題提出の取組 ・保護者連携	S22：「平日の家庭学習時間平均が1時間以上」と答えた生徒の割合【7月・11月実施】（昨年度74％）	80％												
			S17「宿題などの提出物を、期限を守って提出している。」と答えた生徒の割合【7月・11月実施】（昨年度74％）	80％													
		学校・地域（ふるさと）を誇り、自分の生き方を見つめ直すことができる生徒の育成。	【ふるさと学の推進】 ○各教科、道徳、特別活動と総合的な学習の時間「ふるさと学」を関連させる。 ○『フラスワン作成・助言→取り組み・実践→自己評価・他者評価→反省・改善→新たなフラスワン作成』のサイクルの定着と充実に向けた指導を進める。 ○表現活動の充実 ・自己表現の取組や、毎週の学年集会、各学期での意見発表の実施	S36「自分の意見を、言葉の使い方や表現を工夫しながら伝えることができる。」と答えた生徒の割合【7月・11月実施】（昨年度72.5％）	80％												
			S33「自分達の学んだことを生活や社会に生かそうと思う」生徒の割合【7月・11月実施】（昨年度89％）	90％													
		豊かな心の育成	生徒個々に応じた支援により、不登校生徒を減少させる。	【個々の生徒に応じた支援の実施】 ○不登校対策シート（目標・取組の方向性・反応）に基づく支援を進める。 【生徒理解の推進】 ○実態調査に基づく生徒理解を進める。 ○全職員・全生徒の全員面接の実施	・不登校生徒の減少：目標10人（昨年度13人） ・昨年度不登校生徒のうち好ましい変化が見られるようになった生徒数の増加【毎月集計】	90％											
				・アセスの「友人サポート」と「教師サポート」の因子50以上の生徒の割合％以上【7月・11月実施】	90％												
	よりよい自分、よりよい学校をめざす生徒の育成。		【基本的生活習慣の確立】 ○毎月、生活における重点項目を設定して取組を進める。 【生徒会活動、学校行事の充実】 ○めざす生徒像を明確にして、取組を進める。 ○校内ボランティアの実施。	毎月の「重点項目を守って生活している」生徒アンケート集計【毎月実施】	90％												
			S25「みんなで何かに取り組み、やっで良かったと感じることがある。」と答えた生徒の割合 S29「自分たちの学校を、自分たちで更に良くしようとしている。」と答えた生徒の割合	85％													
	信頼される学校づくりと働き方改革の推進	働き方改革の意識を持ち、個々の教職員が業務改善に取り組むことで生徒が、生き生きと生活を送ることができる学校づくり	【信頼される学校づくり】 ・業務の進め方の改善 ・個別の業務の精選と効率化の工夫 ・不祥事防止委員会と服務研修の実施 【働き方改革の推進】 ○働き方改革の意識向上 「自分も起点」という位置に立ち、協働して取り組む教職員組織の育成。 ○超過勤務時間の削減 ○退校時刻の設定と60分前の声掛け	学校だより月1回以上の発行、CoDMONのアンケート機能や資料室機能の活用週1回以上	80％												
			働き方改革アンケート肯定的評価全項目の肯定的評価平均80％以上【毎月実施】【市：6月・11月実施】	80％													
水曜日の定時退校日に17:30までに退校できた職員の割合			80％														

【自己評価 評価】
A：100≦（ほぼ達成）
C：60≦（もう少し）<80

B：80≦（ほぼ達成）<100
D：（できていない）<60

【外部評価】 イ：自己評価は適正である。ロ：自己評価は適正でない。 ハ：わからない。